

『坂道で地域とつながるエコ(環境)ミュージアムホテル』

■歴史観光都市・函館の現状と課題

函館は、明治以降の北海道の開拓と開発、その時代の歴史遺産、文化遺産、産業遺産を有する代表的な都市である。倉庫街、教会や洋館、和洋折衷の住宅群などが「伝統的建造物群保存地区」内に集積している。現代でもその歴史遺産や景勝地の観光を目的に来訪する数多くの観光旅行者により、関連する産業は成り立っている。しかしながら、観光の目的やニーズも変化し、景勝地や有名観光施設を物見遊山的に足早に巡る従来型の観光ではなく、訪問地本来の魅力に直接的、体験的に触れることのできる感動を覚える観光に期待が寄せられている。こうした状況下、函館を代表する観光名所でもある「伝統的建造物群保存地区」周辺においても従来型の観光に依存しており、観光施設周辺の居住者の減少や高齢化等により地域の活力は減少し、観光施設と地域との間に乖離が見られる。

今回の対象である幸坂上部にある「旧ロシア領事館」の保存と再生は、持続的に施設の魅力を維持発展させていくために、単なる歴史的建築の保存だけでなく、周辺環境を含めた地域との関係性の構築と、地域活性化のための施策を必要としている。埋もれている地域の個性や特質、新たな地域資源の発掘などにより、地域の歴史的価値を再評価し、市民、行政、事業者、観光業者、来訪者が一体となり新たな「まちづくり+観光」を推進していく必要がある。幸坂を中心とした地域の歴史的環境の再編を行い、未来に向けた「まちづくり+観光」のための「幸坂エコ(環境)ミュージアム」・『坂道で地域とつながるエコ(環境)ミュージアムホテル』を提案する。

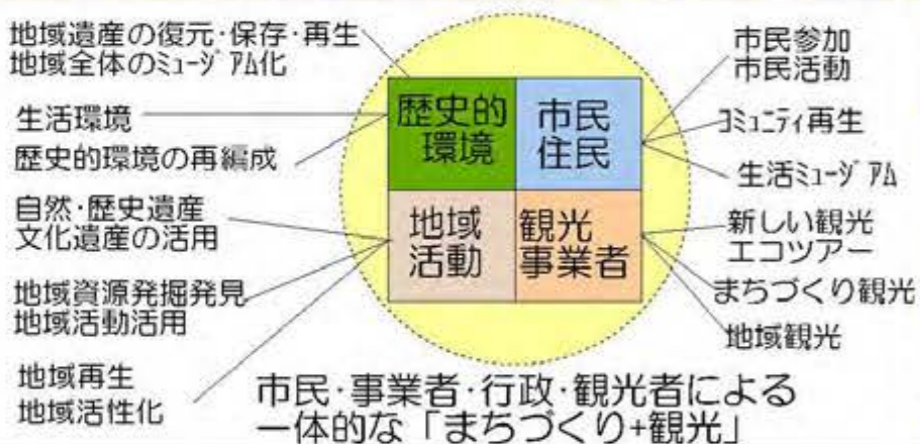
■幸坂エコ(環境)ミュージアム計画による新しい「まちづくり+観光」

エコミュージアム(Ecomuseum)は、エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)とをつなぎ合わせた合成語。住民の参加によってその地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境全体を永続的な(持続可能な)方法で研究・保存・展示・活用していく考え方と実践である。エコミュージアムは、展示資料の現地保存と共に、住民が地域に関わり、地域を見直し、住民の運営により地域の発展やまちづくりに参画し、住民が主体的に地域活動をめざすことに特徴がある。自然や歴史豊かな地域のまちづくりには、有効な手法として関心を集めている。

エコミュージアムの構成要素は、地域の紹介・案内所の機能を果たす拠点施設「コア」と現地で保存された展示資料である「サテライト」「サテライト」間をつなぐ「ディスカバリー・トレイル」(発見の小径)からなる。地域間をネットワーク的につなぎ、地域間を再構成することで人々の活動を活性化させ、一体的でまとまりのあるまちづくりが進展する。エコミュージアム活動が、地域の新たな魅力の発見や発掘につながり、新たな地域資源として「新しい観光やまちづくり」のフィールドを提供し、魅力的で愛着の湧く持続的なまちづくりへとつながっていく。

「幸坂エコ(環境)ミュージアム」は、他地域では見られない格子状の多彩な坂と道、美しい自然景観や軸性の利いた眺望、歴史的建築物が集積している特筆すべき地域である。こうした歴史的環境と各種軸線が織りなす格子構造を活かし、幸坂周辺の歴史的環境の再編とエコミュージアムによる「まちづくり+観光」を推進する。「幸坂エコ(環境)ミュージアム」は、旧ロシア領事館の再生を契機に、市民、事業者、行政、旅行者が一体となって、受け継いで来た歴史・文化遺産、自然遺産をまちづくりに生かし「地域を活かしたミュージアム」へと再生していく。

■エコ(環境)ミュージアムによる「まちづくり+観光」



■幸坂エコ(環境)ミュージアム・『エコ(環境)ミュージアムホテル』

●旧ロシア領事館の歴史的価値を生かした函館にふさわしい博物館ホテル:『エコ(環境)ミュージアムホテル』として再生し、幸坂を中心としたエコミュージアムエリアの拠点(コア)として、地域と一体化した交流とにぎわいの「まちづくり+観光」を推進するために「坂道で地域とつながるエコ(環境)ミュージアムホテル」を提案します。

■幸坂エコ(環境)ミュージアムとエコ(環境)ミュージアムホテル計画概要 (幸坂地区を活かしたエコミュージアムに)

- 幸坂を中心としたエコ(環境)ミュージアムコア(活動拠点)やサテライト(展示対象)を再編し地域と一体的に再生、交流、活性化をはかる
- 旧ロシア領事館を歴史性を生かしたエコミュージアムホテルに再生し、新たな魅力を備えたエコミュージアムの活動拠点(コア)とする
- 旧ロシア領事館を再建時に近い状態に復元し、保存、再生、活用を行う
- 幸坂周辺の未開拓の地域資源を発掘、発見しディスカバリー・トレイルのネットワークで、地域連携と交流により新しい「まちづくり+観光」を実現
- 旧ロシア領事館の特質を生かしたミュージアムとホテル機能の複合的な新しい体験・体感が得られる場とする
- 旧ロシア領事館をエコミュージアムホテルとして再生し幸坂周辺地域を一体的に計画、再生、活性化させる
- 西地区の坂道、道路、自然軸、景観軸、活動軸などの多彩で魅力的な軸性を再構成した格子構造にミュージアム化を図り地域活性化を図る
- 「エコミュージアム」+「ホテル」機能で持続的に幸坂周辺地域の「歴史的環境を活かしながら施設の維持・保全・活用を図る

■エコミュージアムの概念 (地域そのものを活かしたミュージアムに)

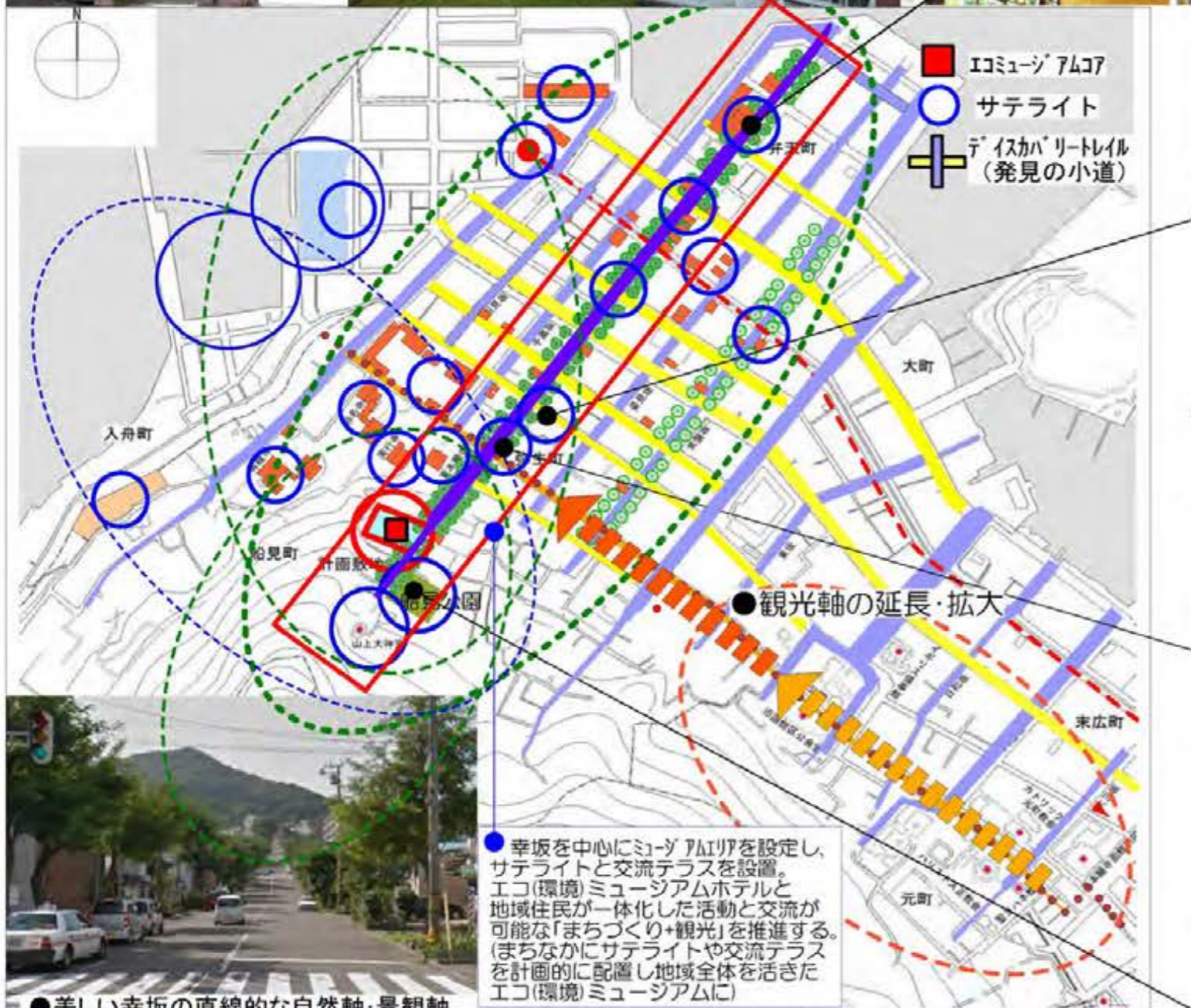
Museum 博物館活動
Ecomuseum エコミュージアム
Heritage 地域内遺産の現地保存
Participation 住民の主体性

■エコミュージアム構成図

ディスカバリー・トレイル (発見の小径) サテライト
コア

・「コア」: 地域の紹介機能を果たす拠点施設
・「サテライト」: 保存された展示対象
・「ディスカバリー・トレイル」: サテライトをつなぐ「発見の小径」

『坂道で地域とつながるエコ(環境)ミュージアムホテル』



●美しい幸坂の直線的な自然軸・景観軸

●旧ロシア領事館「エコ(環境)ミュージアムホテル」再生の基本方針

●幸坂「エコ(環境)ミュージアム」の基本計画

●レンガ倉庫群 港湾エリア・交流テラス



●レンガ倉庫群をアンティークエリアとして保存・再生し、アンティークショップ、工房、カフェに



●和洋折衷建築再生 まちなか交流テラス



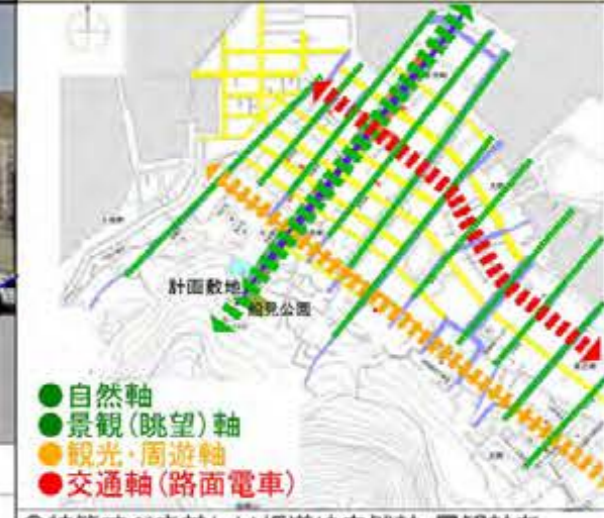
●朝市 交流テラス



●朝市、物産市などを通じて市民と来訪者が会える交流テラス

●船見公園 眺望・休息・交流テラス

◇自然・景観軸と観光、交通軸



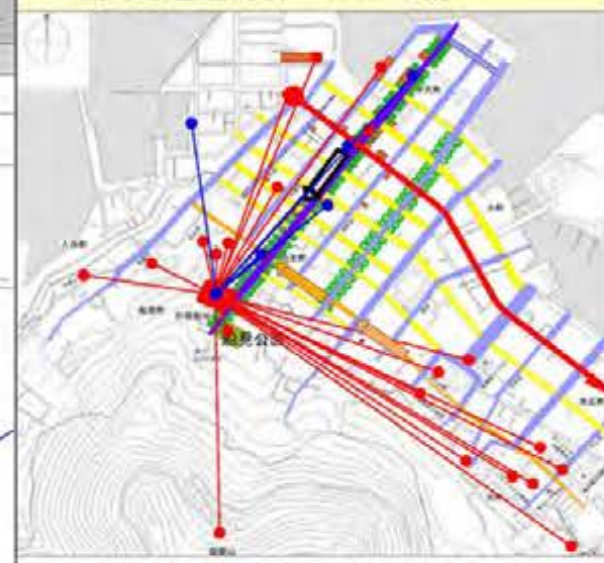
○特筆すべき美しい坂道や自然軸、景観軸を再編成し、新たに交流軸を加えて歴史的環境をいかした「まちづくり+観光」を推進

◇自然エリア・歴史的環境エリア・ミュージアムエリア



○既存の「伝統的建造物群保存地区」の幸坂を中心とする地域の歴史的環境を再編する。自然軸と景観軸に生活軸・交流軸を加え、歴史的環境と地域環境を一体化させた「幸坂エコミュージアム」エリアとして「まちづくり+観光」を実現する。

◇函館西地区の歴史的環境と歴史的建造物群のネットワーク



○西地区の歴史的環境と歴史的建造物群の新たなエコ(環境)ミュージアムによる歴史的環境のネットワークの形成

●船見公園を西地区随一の海が見える眺望・交流スポットに整備

